

米欧亜回覧

第87号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集委員会

年次総会、五月二十二日に開催 平成二十九年、新しいスタートへ

平成二十九年年度米欧亜回覧の会通常総会が去る五月二十二日(火)午後一時五十分より日比谷図書文化館の四階小ホールで開催された。

泉三郎代表は、冒頭の挨拶の中で、来る二〇二一年に岩倉使節団派遣百五十年を迎えるにあたって、それを視野に入れての基本的な考えの発表があった。

また、芳賀徹先生の日本芸術院賞・恩賜賞受賞、保阪正康先生の和辻哲郎賞受賞の祝賀の会を七月中に開催したき旨の提案があった。

その後、総会の議長として理事・事務局長 近藤義彦氏を指名選出。定足数の確認、議事録署名人の選定手続に続き、平成二十九年年度会計収支報告、平成三十年度事業計画ならびに予算案が承認された。

そして、執行部強化のため、本年度より、常任幹事制を設けることになり、その委嘱につき、泉理事長による詳細なる説明と紹介があり承認された。

常任幹事は次の八名。

- 泉三郎氏 (理事長)
- 塚本弘氏 (副理事長)
- 近藤義彦氏 (理事)
- 小野博正氏 (理事)
- 岩崎洋三氏 (理事)
- 吉原和重氏
- 畠山朔男氏
- 植木園子氏

(二頁に関連記事)



平成29年度年次総会 (日比谷文化図書館)

芳賀、保阪両先生の祝賀会

大いに盛り上がる

当会特別顧問としてシンポジウムはじめ当会の活動を永らくご指導・ご支援いただいた芳賀徹先生が「二〇一七年芸術院賞・恩賜賞」を、保阪正康先生が「第三十回和辻哲郎文化賞」を「受賞されたことを会としてお祝いする会が、八月三日(金)夕刻、日比谷松本楼で開催された。(詳細は二頁)



芳賀徹先生



保阪正康先生

記念出版

岩倉使節団の群像

諸般の事情により、現時点で初稿の段階にあり、刊行は二、三ヶ月遅れる予定となった。出版記念会については決まり次第お知らせします。

NHKの大河ドラマ「西郷どん」の三十回目が八月十二日に放映された。題して「怪人 岩倉具視」、あの「鶴瓶」が演じるとあって大いなる期待と大いなる不安を抱きながら拝見した。見終わっての印象を一言でいえば、「まことに面白い快作」であり、「虚実カクテルの怪作」だと感じ入った。

快作か、怪作か 「怪人 岩倉具視」

泉 三郎

た。西郷をいかに魅力ある「どん」に仕立て上げるか、そのため大久保も久光も慶喜も小五郎もそろって引き立て役、時には道化役にされてしまった憾みさえある。

NHKには素晴らしい番組が多々ある。歴史番組も「西郷どん」にしても根幹は史実に則っている、枝葉のところどころで創作しているというつもりかも知れない。しかし、その枝葉が繁茂しすぎて根幹部分が見えなくなっている。NHKの代表的な看板番組で、そこまでやるか。民間放送と競争して、笑いをとり人気をとるため、日本近代化の大恩人？をも、軽々と貶めピエロにし、リスペクトを欠くこと甚だしい。ウブな視聴者があればどう思おうか、史実を知らない若者や少年少女が岩倉という人物をどう思ってしまうのか、寒心に堪えない。

NHKの大河ドラマ「西郷どん」の三十回目が八月十二日に放映された。題して「怪人 岩倉具視」、あの「鶴瓶」が演じるとあって大いなる期待と大いなる不安を抱きながら拝見した。見終わっての印象を一言でいえば、「まことに面白い快作」であり、「虚実カクテルの怪作」だと感じ入った。

史実などウルサイことはいわずエンターテイメントとして見れば出色の作ではないか。脚本も演者も見事であった。脚本家も監督も出演者もその意味では喝采を叫んだのではないかと勘ぐるくらいのもので、出来映えだと思える。四十分足らずの中によくあれだけいろいろなるものを時間や場所に関係なく大胆に詰め込んだものだと感心した。

しかし、である。少なくとも歴史を学んでいる者からすると、あきれ果てるくらい脚色ぶりである。上の厳命か、視聴率が低迷する中での苦肉の策か、史実と創作をコチャマゼにして、どこまでがホントでどこまでが嘘なのか、類似希なタレント鶴瓶を起用して、お構いなしに面白おかしく仕上げた作と見受け

そこで一つ提案がある。「西郷どん」を組上にのせて、どこまでが史実で、そうでないか。有志で探偵団をつくり、岩倉をはじめ主要な登場人物をウォッチし、分析してみたら如何なものであろうか。

和氣満堂」知的にして美的な極上の一会 芳賀先生・保阪先生受賞祝賀会

当初七月二十八日(土)開催のところ、悪天候のため急遽一週間遅れるハプニングにも関わらず、満席の三十二人が駆け付けて、両先生の慶事を、賑やかにお祝いすることができた。

会は泉代表の祝辞・乾杯ではじまり、芳賀先生から受賞対象評論『文明としての徳川日本』(2017.9筑摩書房)について、保阪先生から受賞対象『ナショナリズムの昭和』(2016.11幻戯書房)を中心にお話いただいた後、ご参加下さった大久保利康(大久保利通ご子孫)、五百旗

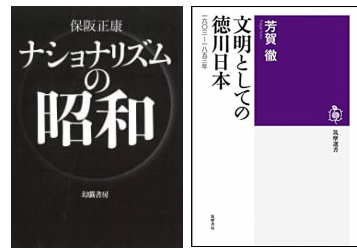


『芳賀徹先生・保阪正康先生受賞祝賀会』於 日比谷松本楼 2018.8.3

参加者全員で記念写真 (8月3日日比谷松本楼)

夫、斎藤恵子、中島由美、多田直彦氏、森本敦之の各氏が祝辞を申し上げ、会は大いに盛り上がった。山田氏は芳賀先生のご著書から珠玉のごエッセイを紹介し、井出氏は保阪先生を戦前の桐生悠々や石橋湛山に並ぶ「偉大なジャーナリスト」だと述べ、斎藤さんは芳賀先生の弟子思いの「あたたかさ」を太陽に喩え、共感と感動の渦を巻き起こす一会となった。

(文責) 岩崎 洋三



芳賀先生の受賞作(右)
保阪先生の受賞作(左)

頭薫(東大教授)、斎藤純生(米欧回覧実記英訳出版日本文献出版社)の各氏から祝辞を頂戴した。

「二〇二一年、岩倉使節団派遣百五十年」を視野に… 泉三郎氏、年次総会で「夢」を語る

泉代表のスピーチから要旨を紹介する。会の方向としては次の三つがあると思う。従来もそのことはいって来たが、新たなスタートに際して、改めてそのことを明快にしておきたい。

古典講読、原典を読む、先人の知恵を学ぶ。これが「古典を読む会」になる。「米欧回覧実記」を読む会がそれであり、「英文輪読会」もその線上にある。「日本近代史」から学ぶこと、その起点が「岩倉使節団の研究」であり、その展開が日本近代百五十年の研究ということになり、「歴史部会」が担当している。

第三が「現未来」の問題点を考え提言する会。これが現「グローバルジャパン研究会」の意図する処で、いろいろの面からアプローチが行われている。しかし、まだ「提言する会」にまではいっていない。これをまとめると、「三つの塾」構想になる。「古典塾」、「歴史塾」、「提言塾」である。

が、いままではどうしても、内向きであり、高齢者主体の会であった、いうなれば「シニア仲間のお勉強会」という性格から抜け出していなかった。そこを明快に転換して前向き外向きに発信する会にしていきたい。

というのが私の夢であり希望である。

それには次のようなことが必須になると思う。

- 一) 若年層を巻き込むこと、これには会員拡大が一つの柱だが、その中で有力な方法の一つは岩倉使節団の群像の子孫への呼びかけである。四代目、五代目の世代にならうが、それらを積極的にすすめていくことが大事だと思う。
- 二) 広報・メディア戦略であり、インターネットの活用である。HP、フェースブック、ユーチューブなどの利用であり、各種の方法が考えられる。
- 三) 既存の情報機関、新聞・テレビをはじめ、大学、各研究団体、地方の歴史資料館、ボランティアグループ、などのタイアップやジョイント企画である。

問題は、誰が、何を、どのようにして、実現していくか、である。

幸い、記念行事まで千日あるのだから、その間になんとか具体化し、NPOらしい堂々たる会に出来ないか。百万円でも千万円でも寄付したくなるような団体(〇〇塾・研究所・提言のできるシンクタンク)にまで出来ないか、それが私の夢である。



講演会で熱く語る泉三郎氏 (6月26日成城ホール)

泉三郎氏、世田谷シニアスクールで講演

六月二十六日、成城ホールで開催された世田谷シニアスクールの講演会に泉三郎代表が招かれ、約三百人の大聴衆の前に「近代化のパイオニア岩倉使節団」を語った。

泉氏はDVDの第一章『岩倉使節団の出発』を映しながら、使節団の概要、視察の状況、明治国家建設への貢献を紹介した後、今の日本・混迷の日本を考えるには、近代化の原点に還える必要があると熱く訴えた。講演後、泉本を求める方も少なくなく、多くの会員に興味を持っていただけよう。

なお、世田谷シニアスクールは世田谷区生涯大学修了者の会で会員は五百名ほどいる。各界の先生を招き毎年三十回開催している講演会には、毎回三百〜四百人が参加する由で、勉強好きでアクティブな高齢者がいかに多いかを実感させられる。

(岩崎 洋三)

☆新会員自己紹介☆

栗明 純生

昨年の七月まで日、欧、米の証券会社に四十二年間勤めました。昔から歴史が好きで仕事の合間に各種の本を読みましたが、時間の制約から思うに任せませんでした。当会への入会を機にもう少し掘り下げてみたいと楽しみにしていますので、宜しくご指導をお願いします。他に短歌雑誌の発行とテニスにも励んでいます。

相楽 敏夫

昭和十三年寅年生まれの人十歳。出身は福島県須賀川市、人口は八万人弱、福島空港の所在地で、牡丹園・松明あかし等が売り物の小都市です。勤務していたのは「日本板硝子」で、

佐賀歴史旅行へのお誘い
十一月一日～三日

過去の長州旅行、薩摩旅行について、今年には佐賀での『肥前さが幕末維新博覧会』開催に合わせて、「佐賀歴史と唐津おくんちと佐賀食道楽の旅」を企画しています。参加人数二十名限定で募集しております。開催日は十一月一日～三日の二泊三日で、博覧会や佐賀城本丸記念館、佐賀県立博物館、大隈重信記念館、佐野常民記念館、

自動車向けのガラス事業を担当していました。

中学高校と卓球部に所属し体育会系の筈でしたが、大学で混声合唱団に所属したのを契機に音楽中心の趣味に傾いています。現在も、シャンソン・カンツォーネや小唄・三味線等音楽三昧の生活を楽しんでおります。宜しくお付き合いの程お願い申し上げます。

対田 恒雄

今回、入会出来ました事は、ひとえに畠山さんのお陰と、感謝致しております。畠山さんは、私の大学同期(丸紅)から紹介を受け、ゴルフ、食事会と、人生の後半戦を楽しませて頂いております。

ソニー卒業後、「ゴルフも人生も後半戦が面白い」の Motto が気に入ってハワイシニ

三重津海軍所跡、久米邦武生誕地、九州陶器美術館、ギャラリ『花伝』(会員・蒲地氏経営)万国博覧会出品伊万里など、炭鉱王高取家、唐津おくんち青山見物、名護屋城博物館とその城址などの歴史回覧と、地元の有名食材による佐賀名物を堪能しようという趣向です。

まだ、少し余裕がありますので、ご希望の方は早めにお申し込み下さい。

(歴史部会：小野担当)

アーライフ協会のメンバーに成りました。我が人生の後半戦は、ややゴルフに偏りがあり、バランスを崩しておりました。歴史に学び、音楽を楽しみ、食事を楽しむ事が出来るのも、畠山さんのお陰です。彼曰く「人生には、知的刺激も必要だ」、全く同感です。

福島 久喜

この度、正式に「米欧亜回覧の会」に入会させて頂いたいきました福島久喜と申します。この一年で明治時代を岩倉使節団を通して勉強し、懐かしい歌声を聴き、その後は何といても冷えたビールに舌鼓を打つ。こんな楽しく、うれしくなる会をこの年をして初めて知りました。これからも楽しみながら会に参加します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

米欧回覧実記
輪読会報告



担当幹事
岩崎 洋三

実記輪読会は、原則、毎月第二水曜日の十三時十分～十四時五十分の日比谷図書文化館四階のセミナールームで開催されている。輪番で音読しながら、和やかに議論しているが、四月の参加者はナヴィ

ギター以外全員女性で女子大セミナーの雰囲気だった。

■四月十六日 実記輪読会

第5巻『ネヴァダ州、及び「ユタ」部鉄道の記』pp. 134～145、第1巻『ロッキーマウンテンの記』pp. 146～164 (岩崎洋三氏)

■五月九日 実記輪読会

第8巻『シカゴ鉄道の記』pp. 164～177、第9巻『シカゴよりワシントン府鉄道の記』pp. 178～191 (岩崎洋三氏)

■六月十三日 実記輪読会

第7巻『落機山鉄道の記』pp. 146～163 (岩崎洋三氏)

□五月九日 英書輪読会

『リス日本滞在記1857.4.1～7.31』

阿部にとり、將軍への大統領書簡の直接提示のための、ハリスの出府容認など論外である。従って下田奉行に全権委任と称して、ハリスの江戸出府要請を阻んできた。

結局この期間内にハリスが成し遂げた仕事は、先に締結(1854年3月31日)嘉永7年3月3日)されていた日米和親条約の、執行命令的性格を持つ補充条約である下田条約の締結(1857年5月26日)安政4年6月12日)である。

下田入港(1856.8.21)以来、1857.7.31までの11か月を経過しても、ハリスの出府要求はまだ実現されない。即ち、

江戸城における合衆国大統領書簡の將軍への直接提示と陳述は、実現していない。この原因は、時の老中首座阿部正弘の、攘夷主義者に劣らぬ外国嫌いの、開国反対論者にある。

下田条約の主要項目

第一条 合衆国船に対して長崎を開港する。

第二条 下田と函館における合衆国人に永住権を与え、函館港における副領事の任命権を認める。

第三条 通貨の相場を定め、合衆国人の従来の支払い額100ドルに代えて、今後は50ドル50セントとする。

第四条 合衆国人は全て同国領事の管轄下におかれ、同国の法律によつて審理される。

第五条 長崎、下田、函館の港での合衆国船の修理と、代金のバーター支払いを認める。

第六条 合衆国総領事の自由通行権を認めるが、その行使は難船などの切迫の場合に限るよう下田奉行所は要望し、領事も承諾する。

第七条 総領事および随員に、日本商人からの直接物品購入を認める。

(市川三世史)

□六月十三日 英書輪読会

『リス日本滞在記1857.4.1～7.31』

ハリスの上記滞在期間にお

ける幕府側の動きについて、これを「列強の軍事力に対する幕府の軍事力の実態」と題してまとめた。この内容は日記とは全く別個で、開国を迫る列強の圧力に対し、幕府側が保有する軍事力を調査した。

列強と幕府の軍事力の比較
【列強側】

・艦船：幕府は500石以上の大船建造禁止令を1609(慶長14)年以降、1842(天保12)年までに5回発令した。1500石(230トン)、200石(300トン)積みクラスの、木造平底帆船が最大である。大船建造禁止令の解除は、1853.9.15(嘉永6年)。第1回米國ペリー艦隊4隻の1853.7.8(嘉永6年)来日時の旗艦サスケハナは、排水量3885トンの世界最大級の蒸気外輪フリゲート艦(砲15門を搭載)

・第2回ペリー艦隊9隻の1854.2.13(嘉永7年)来日時の旗艦ポーハタンは、排水量3825トンの蒸気外輪フリゲート艦(砲15門を搭載)
このため大砲を積んだ軍船は全く存在しない。ましてや、蒸気機関の動力源を有する艦船もない。

【日本側】
・防衛計画(砲台)：戦力増強には新砲台の建設(埋立てを含む)、大砲の铸造、弾薬の製造、砲兵隊の編成、維持、訓練など、莫大な費用を必要とした。

・しかも铸造には、反射炉の製作から着手せねばならぬ状態にあった。
・江戸湾の既存砲台の砲99門のうち、外国勢に比肩できる砲は僅かに19門であり、しかもその大半は白砲であって射程が短く、ペリー艦隊まで砲弾は届かない。
・幕府の責任者と財政1842(天保3)年歳入148万241両、歳出145万3209両、収支差額黒字2万9212両大きな歳入は金銀の改铸である。徳川200年の鎖国が大きいのしかかっている。

・列強の軍事力には全く歯が立たない。また財政的にも無策で、戦費のための歳入増強が見込めな。

・1854(弘化元年)歳入171万9090両、歳出212万9130両、収支差額黒字44万6340両
・主席家老 阿部正弘
(市川三世史)

した。
・三月十九日・アーネスト・サトウ(岩崎洋三氏) 外交官(発表:岩崎洋三氏) アーネスト・サトウ (Ernest Mason Satow)

歴史部会報告



幹事 小野博正
担当 小野博正

■三月十九日・アーネスト・サトウ(岩崎洋三氏) 外交官(発表:岩崎洋三氏) アーネスト・サトウ (Ernest Mason Satow)

Mason Satow) は、文久2年(1862) 6月日本語通訳生として19歳で来日し、以後明治13年まで約20年間滞日し、流暢な日本語を武器に初代英国公使オールコック、二代目パークスを助け、明治維新に大きな影響を与えたイギリスの外交官である。サトウは13年後に駐日公使として再来日し、日本勤務は通算25年に及び、英国では日本学の権威としても評価されている。

サトウが日本に憧れるきっかけは、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン2年生で通訳生試験直前の18歳の時に読んだ『エルギン卿遣中・遣日使節録』が日本を美しく描いていたことだった。この本はアロー戦争と日英修好通商条約交渉の記録だが、アロー戦争指揮官エルギン卿の私設秘書として随行した著者ローレンス・オリファントが帰国と同時に1859年に出版したものだ。条約交渉のため2週間訪問した日本を丹念に、美しく描いていた。

オリファントは1861年に代理公使含みの駐日英国公使館一等書記官として来日するが、直後に第一次東禅寺事件に遭遇し負傷帰国を余儀なくされた。サトウは赴任前にこれを知り、着任5日後には更に生麦事件と、外国人が襲われる事件が頻発する中での日

本赴任になったが、「外国人が襲われるのは当然」と肝が据わっていた。この胆力はその後幕府の目を盗んでの雄藩人士との交流や、頻繁な内陸調査旅行の実施にも見て取れる。
着任翌日には日本語のエキスパートである米人宣教師ブラウンとヘボンを訪ね、日本語学習を急ピッチでスタートし、オールコック公使をして「半年後には目を見張る進歩を成した。サトウは書かれた日本語の難しさもマスターできた唯一の人物。」と言わしめる長足の進歩を遂げる。

オランダ語通訳を介さずに、流暢な日本語で西郷隆盛・勝海舟を含む幕府・雄藩・新政府の要人と直接日本語で意思疎通出来たのは画期的なことで、結果情報収集の質量や影響力が格段に増した。
着任4年後には「天皇を元首とする諸大名の連合体が支配権力になるべし」とする内容の『British Policy』を横浜の英字紙に発表した。翌年『英国策論』と題して日本語版が全国の書店に巡回すると、西郷はじめ雄藩の重要人物がこぞって読み、大きな影響を与えた。

また、薩摩戦争、下関戦争、新將軍慶喜の外交使節謁見、大坂開市・神戸開港準備、明治天皇謁見、雄藩重要人物との会見等重要局面でサトウの日本語能力は不可欠で、オールコック、パークスを助け、英国がフランス等国を制して対日交渉の主導権を握り、明治維新に大きな影響を与えることに貢献した。

なお、サトウは、英国では外交官として以上に日本学(Japanologist)の権威として高く評価される。また、言語学者、旅行家、旅行作家、辞書編纂者、登山家、植物学者、日本文献の収集家としても多くの実績を残す多才でエネルギー溢る人物だった。
サトウの幅広い活躍を詳細に紹介するのは至難の業で、今回は自著『A Diplomat in Japan』(邦訳「外交官の見た明治維新」)を中心に、最初の日本赴任をカバーするにとどまった。(岩崎洋三)

■四月十六日・大倉喜八郎の旺盛な企業家精神(講師:村上勝彦 東京経済大学名誉教授)
大倉文化財団理事長の村上敏彦氏をお招きして『大倉喜八郎の旺盛な企業家精神』のお話を伺った。参加者二十二人。
城山三郎に「野生のひと」と松永安左衛門と並び称された大倉喜八郎は、越後・新発田の商人の子に生まれ、丹羽伯弘に知行合一の陽明学を学び、十八歳で単身江戸に

出て、丁稚奉公から始め、幕末に鉄砲商として起業する。民間人初の欧米視察で岩倉使節団と現地で交流し帰国後、日本国内での「居貿易」から「出貿易」の時代と見て、いち早くロンドン支店を設置し、薩長土肥関係商人に対抗して自立する。

洪沢栄一を生涯の盟友として東京商法会議所設立に参画、商法の近代化に努める一方で、貿易協会や大倉商業学校を設立。中国・朝鮮・ペルシャ・トルコ・インド貿易の先駆者となる。東京電燈、東京電力、銀座にアーク灯点灯、サツポロビール、帝國ホテル、ホテル・オークラ、帝國劇場、土木建設(大成建設、鉄道、地下鉄、鹿鳴館、歌舞伎座)、製材(秋田木材)・製紙(特種東海製紙)、製靴(リーガル)、製革(ニッピ)、日清オイリオ、浅草パノラマ館や数々の国内外鉄道事業で大倉財閥の基礎を築く。特に中国では製



講師の村上勝彦氏 (4月16日歴史部会)

鉄所など、日本初の対中投資に踏み切り、中国同盟会結成大会に大倉邸を提供、辛亥革命に関わり孫文らと交わる。自助、努力、誠意がモットー。株、相場、銀行はやらぬ主義が災いして、財閥解体後の戦後の財閥復活がならなかった。九十歳で山登り、十四歳からの狂歌、一中節、本阿弥光悦流の書、大原集古館など、仕事は西洋近代風、趣味は江戸情緒的、前近代・アジア風で陽気で洒脱な人柄。振る舞いは派手で陽徳。石門心学の商人道で資本の論理と倫理・道徳のバランスを保つ。責任と信用。「言葉の命を重んじる」「信用なきは首なき人と同様なり」は、今の政治家、企業家、役人に聞かせたい言葉。やはり、近代の巨人であった。

■五月七日・西郷どんを奔らせ た薩摩藩の名君・島津斉彬(発表:小野博正氏)
参加者十八名。
鹿児島島の照国神社に祀られている島津斉彬は、名君に恥じない。薩摩藩が明治維新の実現に最も貢献したことは異論の余地がないが、その薩摩藩の国父・島津久光や藩士・小松帯刀、西郷隆盛、大久保利通らを幕政改革から、やがて倒幕へと走らせたのは「斉彬の御深意」(先君の遺志)

である「御一新」。「日本一致一体論」「殖産興業、富国強兵」「開国と貿易」「夷を以て夷を制する文明開化」を誠実に追求することにあつた。島津家の高祖・忠久は源頼朝の落とし子とも言われ、筆頭公家・近衛家の島津荘の守護職を務めた。十三代家定に代々の藩主の娘を正室に送り込み、斉彬の正室・英姫は一橋家・徳川斉敦の娘であり、公家と将軍家とに華麗な閨閣を築いていた。斉彬は曾祖父で蘭癖大名と言われた重豪に似て、蘭書を読み漁り、西洋知識の森羅万象に興味を示し、それを嫌った父・斉興に嫌われて、藩主になったのは四十三歳の時である。治世は一八五〇〜五八年のわずか七年間であつたが、その間にまさに回天の基礎を敷いた。老中・阿部正弘から幕臣、岩瀬忠震、川路聖謨、江川英龍、勝海舟、大久保忠寛や藤田東湖、佐久間象山らと交わり大船建造、海防・軍備等幕政を建言し、水戸の斉昭、松平春嶽、徳川慶勝、伊達宗城、山内容堂らと幕政論をリードした。蘭学者・杉田成卿、坪井芳洲、戸塚静海、高野長英、渡辺崋山や川本幸民、松木弘安らに蘭書の調査・翻訳を依頼し、富国の材料となる化学物質(硫酸、塩酸、硝酸等)、洋酒と

甘藷アルコール、陶磁器や釉薬、氷砂糖、白砂糖、燻蝟、樟脳、晒し法、塩田・石炭探索、水力利用、養蚕、ガラス、皮革鞣し法、製紙、農具製法など民生的産業、反射炉、製鉄、鋼精錬で大砲、ゲーベル銃、雷管機銃など防備、写真術、電信、電気、地雷、鉱山爆発法から、軍艦、蒸気船製造まで、自ら企画・開発・実験を指導した。これらは集成館事業として結実し、領地を巡幸して農業こそ国の基本と農業改革を進め、一癖ある人こそ有為に役立つと人材登用・開発に努めた。琉球経由外国留学生派遣指示したのも斉彬であつた。幕末・明治維新の諸政策は、まさに先君の遺志の実現であつた。

■七月十六日・海舟と薩摩藩の情報収集「そしてワシントンでの岩倉使節団統編」(発表:吉原重和氏)
小野博正
検索技術の進歩により、従来は専門家しか目にする事が出来なかつた書籍あるいは情報に容易にアクセス出来る時代と成つた。既に著作権が切れた古い学術書や論文がGoogleやMicrosoftにより大量にデジタル化されて無料で閲覧出来るのでこれまで見過ごされて来た情報に接する事が可能

と成つた。更には明治時代の外国の新聞記事アーカイブも検索可能である。今回はインターネットに加え国会図書館、国立公文書館、東大歴史編纂所などの収蔵資料も交えて知り得た情報をもとに、いくつかのトピックスについて述べた。



5月7日歴史部会 (右から2人目が小野博正氏)

◇海舟と薩摩藩の情報収集
薩英戦争後に江戸に派遣された薩摩藩遊学生達が海舟の塾生だった事が海舟日記に記載されていた事が新たに判明した。加えて彼らが薩摩藩の情報収集の一端を担っていた事、そして彼らの密航直前の長崎における行動についての報告を行った。薩摩藩邸では南部弥八郎、柴山良介、肥後

七左衛門の三名が探索方として活動していた。南部は探索方報告書にまとめて薩摩飛脚で藩庁へ送っていた。

情報の収集は奉行所付属の通訳出穂屋(清水)卯三郎、文書翻訳方木村宗三、立石得十郎、通詞立石斧次郎、外国方翻訳福澤諭吉、北村元四郎、アレキサンダー・シーボルト、そして薩英戦争後に江戸に派遣された遊学生達を横浜に送り行っていた。

◇ワシントンでの岩倉使節団 続編
先づMartin Colcutt先生(プリンストン大学名誉教授)から、ワシントンのMasonic Templeで開催された米国国務省主催の岩倉使節団歓迎の公式晩餐会について、久米邦武は「晴」とだけ書いて何も触れていないのは何故だろうかという問題提起が成されたのでその後の研究成果を発表した。

新聞記事を読むと確かに多くの参加者を招いて国務省主催の晩さん会が開催されていた事が判る。副大統領のColfax、国務長官のFish等が参加したが何故かグラント大統領は不参加だった。そもそも大日本外交文書付属書(略日記)に二十六日の記載自体がなく晩餐会などは無かった事に成っていた。久米が実記に晩餐会を書かなかった理由は

単純で日本側は晩餐会の事実を公表していなかったからと言える。伊藤博文伝にも晩餐会の記述は無かった。

実は宗教問題が使節団の前に横たわっていてワシントン到着前から新聞紙面をにぎわしていたので岩倉は宗教問題には敏感だった。グラント大統領は謁見式の日早速宗教問題に触れていた。この宗教問題が発端でグラントが晩餐会を欠席したというのが事実であれば、日米間の宗教問題の対立を表面化させたくなかったという推論も成り立つ。今後の研究が望まれる。(吉原重和)

グローバル
ジャパン研究会
報告



担当幹事
島山 朔男

■四月十四日・二十一世紀からの日本への問いかけ(講師:石渡慧一氏 経済産業省)

前回に続き、経済産業省若手を招き、次官・若手未来戦略プロジェクトをテーマとした。講師は、入省五年目の石渡慧一氏。まず、「二十一世紀からの日本への問いかけ」というスライドに基づいた講演を頂いた。
AI・IoTの登場により現在

は第四次産業革命が始まっており、二つの大きな変化が生じている。一つは、AI・IoTにより、無人化などの労働代替化が進むこと。工場のみならず、オフィスでも、単純労働は、機械によって、代替されてしまう。そうした中で、「差異」を生み出せる事業者だけに利益が偏在する傾向が強くなるのではないかと。今後においては、バイオテクノロジーの革新的技術とAI・IoTが融合し、画期的な治療法や医薬品の開発など、健康医療分野のパラダイムシフトが期待される。

そうした時代に、日本の立ち位置をどう考えるか。少子高齢化が日本の足を引っ張るといわれているが、高齢化によつて、日本はAI・IoTへの抵抗が世界で最も少ない国になるのではないかと。また、AI・IoTのサポートによつて、高齢者が、支えられる側から、価値創造側に回ることもできるのではないかと。日本の多様な産業基盤は、経済複雑性指標ランキングで、世界一。我が国の価値観、文化が有する「差異」が、世界に新たな価値を生み出す可能性があるのではないかと。
戦後日本は、製造業中心の発展により、経済成長とともに、格差の小さい社会を維持してきた。だが、このモデル

が、今、揺らいでおり、所得の二極化が進行し、貧困、孤独が拡大している。今後においては、AI・IoT、バイオ技術を活用し、世界最高レベルの高齢者の労働参加と、若者の教育への思い切った投資により、「差異」を生み出す人材の創出が必要。

続いて、質疑応答に移った。国家財政が破綻する危機をどう考えるか。もし、金利が上昇すると、大変なことになる。人々の幸福をどう考えるか。特に、若者たちは、現状に満足しているのではないかと。ただ、満足度は、主観的な指標で、日本人は、概して、厳しい評価をする傾向。例えば、顧客満足度調査で、外国人は、良かったら十点を付けることがあるが、日本人は、満足していても十点は付けない。教育は重要だが、今、基礎的分野を削つて、実用的分野に向かつているが、これは問題だ。また、詰め込み教育の問題点を指摘する人がいるが、孫正義は、「教育が役に立たないといえるほど、勉強をしたのか。論理的思考は、勉強によつて養われる」と言っている。多様性という点で、例えば、デンマークでは、平均転職が五回、幸福度についても、ヒュッゲという文化で、住み易い社会を作っている。など、大変活発

な議論が行われた。

(文責) 塚本弘
■六月十六日・私の知っている孫正義十口ポットペッパー(Pepper)(講師:井上篤夫氏&布和賀什格氏)

今年、アメリカのタイム誌は「世界で最も影響力のある百人」に孫正義を選んだ。ソフトバンクは最近、銀河系宇宙論をビジネスの世界に展開する「群戦略」を発表、世界一の企業群を目指している。孫正義は平成の渋沢栄一か? 岩崎弥太郎か?

◇孫正義は一体どんな人物か
当会員、作家で三十年以上孫氏を追いかけ続けている井上篤夫氏に語って頂いた。

最初に孫氏にインタビュしたのは三十年前。その時の孫氏に衝撃的なオーラを感じた。ビルゲイツをインタビュした時に同じ様な強烈な印象を持った。孫氏は当時、既に自分達がナンバーワンを狙うべき分野や業種、その将来性などについて理路整然と熱っぽく語っていた。また、父親を尊敬しており、「親父から集中力、負けじ魂そして愚直さを学んだ。親父は子供を心の底から徹底的に誉めちぎり、お前は天才だ! 世界一になれる。と言いつつ子供のをやる気を育てた。」と語っている。
孫氏は「アメリカに来ると

ワクワクして元気になれる」と常に言っていた。カリフォルニアのバークレー校に留学して猛勉強し、教授陣からリーダーになる素質があると高く評価された。孫氏は「僕を作ってくれたのはバークレー校だ。ほとんど全ての事をバークレーで学んだと言っても良いかもしれない。」と語っていた。孫氏が、「電子辞書」の特許を取得したのはバークレー校在学中であった。この特許を売却した資金がその後のビジネス展開の源泉になった。最近、ソフトバンクはアメリカの携帯大手スプリント社を買収、サウジアラビア等と設立した十兆円規模の「ソフトバンクビジョンファンド」、「原発二百基分。ソフトバンクとサウジアラビアが二十一兆円の太陽光発電計画」、英国の半導体メーカー「アーム社」の買収、人型ロボットペッパー、あらゆる物がインターネットに繋がる「IIOT」にビジネスを展開。今や日本を代表する事業家と言っても良い。

しかし、孫正義はさらに大きい夢を持っている。「三十年後にはグループ会社五千人、時価総額二百兆円を目指す。三百年先を見据えた経営をする。世界一に向けて頑張ります。」と公言する。

人材育成では、ソフトバン

■四月二十九日 i-Cafe-music @ シェア奥沢 総集編」
今回で二十回目を迎え、一

i-café-music&lecture 報告



担当 幹事 植木 園子

ク育英財団やソフトバンクアカデミアを展開。「高い志」「異能」をもつ若者の自らの才能を開花できる環境を提供して人類の未来に貢献する。

◇感情認識ロボットPepperの活躍分野について
ソフトバンクの重要な戦略プロダクトの感情認識ヒューマノイドロボット「ペッパー (Pepper)」についてモンゴル出身の起業家布和賀什格氏にAI時代のロボットアプリを語って頂いた。

布和賀氏はソフトバンクアカデミア出身の第一期生で孫正義氏と面談して選ばされた。同氏はペッパーのアプリ開発ベンチャー「You Teacher社」を立ち上げた。これからはAI時代で、感情認識ロボットペッパーの社会的活躍は多岐にわたり、介護、医療、教育、産業等あらゆる分野で活躍できると熱く語った。
(文責) 小泉勝海

泉三郎代表に「岩倉使節団の土産は何だったのか？」と題して岩倉使節団の意義を熱く語り頂いた。

第二部は、「幕末・明治の西洋音楽」と題して、ペリー来航時の「ヤンキードゥードゥル」、戊辰戦争時の「宮さん宮さん」に始まり文部省唱歌に至る西洋音楽の導入状況を、ピアノ植木さんの選曲で、お馴染みソプラノ武藤弘子さん+i-Cafe Singersに加えて、ヴィオラ鴛沢幸子さん、ヴァイオリン植木潤さんの応援で、贅沢なレクチャー・コンサートになった。

第三部の交流会は、新入会員や新年会や歴史部会、グローバルでご縁の出来た方々を含め四十人近くが、キッチンマスター立山徹さん力作のハヤシライス、コロツケ、アパン等明治の洋食をいただきながら、談論風発、時間を大幅に超過した。
(岩崎洋二)

教授の久枝讓治氏を招いた。DVDで岩倉使節団の出發部分を見た後、同氏は満席の聴衆に『広島原爆ドームの世界遺産登録を目指して』日米外交秘話』と題して、原爆ドームに対する日本と諸外国の認識ギャップ、日米関係、日中関係などの困難な状況下、一九九六年メキシコで開催された世界遺産委員会での世界遺産登録に漕ぎつけるまでの舞台裏の微妙な駆け引きを生々しく語った。また、その八年後には駐オマーン大使として同国で『平和都市・広島』と題する写真展を開催したことも披露、平和を願う広島の思いに心を寄せる久枝氏の熱弁は感動的だった。

第二部のミニ・コンサートでは、新年会で好評を博した元劇団四季ヒロインのソプラノ中澤孝子さんが『ウェストサイド・ストーリー』や『キャッツ』などブロードウェイ・ミュージカルからの名曲を熱唱してくださった。お陰様で西荻窪「響」でのi-Cafe music新シリーズは順調にスタートできた。
(岩崎洋二)

■七月二十二日 i-Cafe 大佛次郎「天皇の世紀」を見る会 第一回
大佛次郎「天皇の世紀」は、嘉永五年(1828)の祐宮(後の明治天皇)誕生、翌年のペリー

艦隊来航から戊辰戦争に至る激動の幕末維新の時代を膨大な歴史資料を駆使して描いた歴史小説。朝日新聞が明治百年に因んで企画し、一九六七年一月一日から朝刊に連載されたが、一九七三年四月三十日が人のため病没、未完となった。一九七一年には、十三話のテレビ映画として朝日放送で放映された。

お話は半澤健市氏(会員)で、映像は、第一話「黒船渡来」く太平の眠りを覚ます四隻の黒船」、第二話「野火」く変革の種を蒔いた吉田松陰」
続いて第二部として、音楽に耳を傾け、手作りの料理を頂きながら歓談した。



i-café-music新シリーズ第1回(6月17日「響」)
左は講師の久枝讓治氏

催し案内

2018年(平成30年)9月~11月

☆米欧回覧実記輪読会

九月五日(水) 13:10~14:50
第10巻 「ロロンピヤ」県の
総説 pp.193~203 第11巻
華盛頓府の記上 pp.204-219
〔富田兼任氏〕
十月十日(水) 13:10~14:50
第12巻 華盛頓府の記中
pp.220-237 〔富田兼任氏〕
十一月十四日(水) 13:10~
14:50
第13巻 華盛頓府の記下
pp.238~253 〔富田兼任氏〕

☆英書(The Complete Journal of Townsend Harris)輪読会

九月五日(水) 15:00~17:00
pp.423-447
(Friday, November27, 1857
Monday, November30, 1857) 〔水
谷剛氏〕
十月十日(水) 15:00~17:00
pp.447-468
(Tuesday, December1, 1857
Sunday, December6, 1857) 〔斎
藤恵子氏〕
十一月十四日(水) 15:00~
17:00
☆歴史部会
九月二十五日(火) 13:30~
16:30
『憲法三題断』・「大日本帝
国憲法(明治憲法)」 泉三郎

氏・「私擬憲法と植木枝盛、千葉卓三郎、鈴木安蔵など」

芳野健二氏・「日本国憲法一
憲法九条は幣原首相の発案
か?」小野博正氏
国際文化会館401号室
会員千円(非会員千五百円)
十月十五日(月)
『鍋島閑叟』(佐賀旅行を前
に)大森東亜氏
☆グローバルジャパン研究会
九月十五日(土) 13:30~16:
30
『日本の通商政策とアセア
ン』岩田泰氏(経済産業省通
商政策局総務課長)
国際文化会館セミナーE
会員千円(非会員千五百円)
十一月十七日(土) 13:30~
16:30

☆i-café

十月五日(金) 14:00~17:00
「大佛次郎『天皇の世紀』を
見る会」第三回
第五話「大獄」、第六話「異
国」(解説:小野博正氏)
日比谷図書館文化館四階
会員八百円(非会員千円)
☆i-café music@西荻窪響
九月三十日(日) 14:00~17:
00
『映像とお話・芳野まい氏』
「政治とファッション」した
とえばジャッキー・ケネ
ディ(♪中澤孝子氏)ブ
ロードウェイミュージカル
「エビータ」から、他
会員二千五百円(非会員三千
円)

特定非営利活動法人
「米欧亜回覧の会」ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記
録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々
の集まりです。
この歴史的な大なる旅と「実記」は、まさに
「温故知新」の宝庫といえましょう。この素材
を媒体に歴史を学び、現代の直面する諸問
題についても自由に語り合う会です。

会員 趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
例会 年に4回、全体例会があります。

部会 テーマ別に読む会、歴史部会、グローバル
ジャパン研究会等があり、映像サロン・旅行
会・研究会・シンポジウム等を行っています。

機関紙 年に4回、機関紙を発行し活動報告や会員の
意見発表、情報交換の媒体とします。

役員 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、
会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当
します。

会費 年会費6,000円とし、主として通信費及び機関
紙代に充当します。例会・部会・講演会などに
ついては、その都度の会費とします。なお、遠
隔地居住者、仮入会希望者、学生には地方
会員、準会員、学生会員の制度もあります。

事務局 「米欧亜回覧の会」事務局 近藤義彦
〒181-0012
東京都三鷹市上連雀 1-1-5-707
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL 090-2658-1423

入会申込

入会申込書はホームページと事務局にあります。
年会費などのお支払いは下記口座をご利用ください。

ゆうちょ銀行
振替口座(当座預金) 00180-0-635365 店番:019
総合口座(普通預金) 8804433 店番:018
三菱UFJ銀行 222-(普通)0544121

特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

歴史に学び、未来を考えませんか?

NPO法人米欧亜回覧の会 公式ホームページ

http://www.iwakura-mission.gr.jp

Facebook

Iwakura Mission Society 岩倉使節団・米欧亜回覧の会

編集後記

◇五名の方が新会員となり、四名の方の自己紹介を掲載
していますが、もう一名は何
と、(株)日本文庫出版社主で、
2002年米欧回覧実記の英訳
『The Iwakura Embassy 1871-
73』出版で、日本翻訳文化賞
受賞された齋藤純生氏です。
同年四月の当会例会にお招
きして出版のご苦労話をお
伺いし、二〇一四年の『英訳
実記を読む会』の読了記念
パーティーにはお祝いに駆
けつけて下さいました。
本年改めて同書を当会に
ご寄贈いただき、八月に岩崎
理事がお礼を申し上げた所
「遅まきながら入会します」
と申込されました。
◇吉原氏・村井氏が進めてい
る新ホームページが充実し
てきました。今号の報告を補
完する情報もたくさん掲載
されています。また、当会の
催しものがカレンダーで一
覧できる便利な機能もあり
ます、是非ご利用ください。
◇約九十名のメールアドレス
が登録され、会員への逸早
い告知・連絡ができる体制が
整いました。未登録の方は事
務局にメールを送信して、登
録をお願いします。
◇今年度の会費納入をお忘
れの会員の方は、「会の案内」
に記されている口座に早め
にお振込みください。(N)